

第2回リニアまちづくり構想市民委員会 会議録

平成24年9月18日（火）

午後2時から午後4時30分

恵那市防災センター研修室

【会議次第】

○委員長あいさつ

[協議・報告事項]

1. 恵那市の体制について
 2. 中学生、市長と語る会の報告
 3. リニア中央新幹線の現状について
（県活用戦略研究会各部会の報告）
 4. 恵那市の現状について
 5. 今後の進め方について
 6. その他
-

事務局

ただ今から第2回リニアまちづくり構想市民委員会を開催します。
7月に人事異動がありました。リニアまちづくり室室長の小坂と申します。
よろしくお願いします。
それでは委員長あいさつをお願いします。

委員長

お忙しい中ありがとうございます。委員長を務めさせていただいております中部大学の磯部と申します。本日は防災センターでの開催ということですが、リニアと防災というのは実は関係があります。大地震がいつ来るのか、今すぐ来るとか言われていますが、いつ起きるかわかりません。地震が起きたら新幹線のうかい路も必要になるということで、もう一本、東京地区と関西地区を結ぶというのもリニア建設のひとつの理由ということです。

うかい路というと、前回の会議は途中で退席させていただきましたが、その時にJRが止まりました。多治見まで行ったのですがそこで止まってしまって、困りましたが「太多線を利用して名古屋まで行ける」と言われ、うかい路は必要だなと感じました。

リニアについては、幹線としては整備されますが、地域としてどのように考えていくかということで、早めに準備をしていかなくってはなりません。いったん動き出すと大変ですので、早めに考えて、まちづくりの方向性を定めておくというのが大切です。

事務局

ありがとうございました。ここで、新しい委員の方のご紹介をし

	たいと思います。明知鉄道の専務取締役丸山様に今回からお越しいただきました。
委員	明知鉄道の丸山です。よろしくお願いします。
事務局	ありがとうございました。それでは協議・報告に入りたいと思います。ここからの進行は委員長さんをお願いします。
委員長	本日の協議報告事項は5つあります。次第に基づき、進めたいと思います。それでは一つ目の「恵那市の体制について」事務局説明をお願いします。
事務局	企画部長の小嶋と申します。よろしくお願いします。私のほうから恵那市の体制についてということで説明をさせていただきます。 資料を1枚めくっていただいたところにあるように9月1日付けでリニア推進本部を設置しました。これは、この委員会でリニア開業に向けたまちづくり構想が議論されるということと、県においてもリニア活用戦略研究会において作業を進めています。それらの関連する施策の総合調整そして円滑な事業推進を図ることを目的につくらせていただきました。 組織は、本部長、副本部長、本部員で組織します。本部長には市長、副本部長には副市長を充てています。本部員については、企画部、経済部、建設部、水道環境部の職員を充てています。 企画部では移住定住、人口減少対策そして全体の事業調整と事務局の役割を担うことにしています。そして、経済部は観光、産業振興の関係、そして建設部はアクセス道の関係、基盤整備、開発といったこと。そして、水道環境部においても、基盤整備開発関係ということで参画をしてもらっています。以上簡単ですが本部設置について報告をさせていただきました。
委員長	ありがとうございました。続いて2番目の市長、中学生と語る会の報告をお願いします。
事務局	リニアまちづくり室の西尾と申します。よろしくお願いします。 8月29日に市内8中学校の生徒代表と市長の語る会が行われました。「未来のまちのために今やるべきこと」という大テーマがあり、「環境にやさしいまちづくり」「リニアを生かしたまちづくり」について中学生から意見を頂きました。 今回リニアに関するものを要約させていただきました。こういった中学生からの提案がありますので、今後の構想へ反映ができればと思います。 4つのことについて提案がありました。1つ目として交流人口の拡大ということ、2つ目として若者の働く場所、3つめとして、若者に魅力のあるまちづくり、4つ目に自然を大切にという提案がありました。

委員長	ありがとうございました。続いて 3 番目のリニア中央新幹線の現状について、県活用戦略研究会の報告をお願いします。
事務局	資料は事前に配布させていただいている資料をご覧ください。こちらは県の活用戦略研究会の部会の報告です。 リニア開業の効果ということで、リニア県内利用者数、経済波及効果があります。1 番目としてリニア開業時の旅客流動の変化ということで、県内駅の利用者は 1 日当たり約 3200 人という予測結果がでています。2 番目としてリニア開業による圏域別玄関口駅利用割合の変化、東濃、中濃の大部分、下呂市の方がリニア県内駅を利用するであろう。飛騨北部や郡上は県内駅と名古屋駅に分散するであろうということで、県の駅ですが全ての方が利用するわけではないということです。3 つ目としてリニア建設および開業による経済波及効果、リニア開業後の観光旅行者の増加ということで、旅行者が増えることによって産業誘発効果が年 218 億円。総合車両所の設置については年 79 億円。建設段階では、建設事業費が 1 兆 263 億円ということで、生産誘発効果は年 1470 億円、雇用創出効果は年 10202 人という効果があるという予測結果が出ています。 次のページには経済モデルの分析結果があります。調査結果は各駅停車型と速達型という 2 つの予測があります。 各駅停車方について説明をさせていただきます。単年度便益は年 55 億円、生産額は年 126 億円の増加、旅客流動率は 10% の増加という予測が出ています。 3 ページについては、県民と首都圏に住む方にアンケートを行っています。アンケートの結果によると、県内の方と首都圏の方の想いに少し違いがあるという結果がでています。駅機能については県民が重視する機能は「レストラン」「駐車場」が大半を占めています。一方首都圏の方が重視する機能は「レストラン」は一緒ですが「特産品の店」「ホテルなどの宿泊施設」「観光案内所」という回答が上位にあります。アクセスについても県民は「十分な容量の駐車場」「地域と駅を結ぶ道路」「在来線の快速列車」が約 7 割。首都圏については約 6 割が「在来線の快速列車」「観光地を結ぶバス」などです。 続いて首都圏住民の二地域居住、移住の傾向についての傾向です。2.5% の人が移住などを積極的に考えているということです。移住の条件としては仕事、居住コスト交通条件などが挙げられています。県民の就業先などについては、首都に移住して働きたい、学びたいというのは現状とリニア開業ごとではあまり変化はありません。しかし、通勤・通学をしたい方はリニアがあると 10% になり、人口流出の可能性があるということです。買い物行動については、首都圏を利用したい割合が多くなるという結果がありました。

事務局	続いて4ページですが県の研究会のスケジュールです。平成25年の1月ごろにまでにおおよそのまとめをされる予定です。2月から3月にはより具体化された「リニア活用戦略」の一次案をまとめられることになっています。平成25年度には駅位置の公表などがあってからさらにしっかりとしたまとめを行うということになっています。 次のページからは県の部会のそれぞれの検討課題が載せてあります。観光まちづくり部会については、課題1リニア開業による観光交流人口の拡大、2リニア開業による新たな住まい方の実現、3として観光振興に効果的な駅。駅周辺整備のあり方というテーマで今後、具体的につめていくということになっています。産業振興部会については、リニア開業を生かして誘致する業種の検討、産業活性化のための駅・駅周辺整備のあり方、総合車両所を生かした産業活性化策、総合車両所の観光資源としての活用策。基盤整備部会については、リニア駅および駅周辺設備についてはリニア岐阜県内駅のありか方の検討、駅周辺機能のリストアップ、想定される旅客数に基づく各機能の規模や整備手法、アクセス整備については、県内各地とのアクセス道路整備のあり方、道路利用者のための駅および駅周辺機能の整備、鉄道アクセスについては県民、本県来訪者双方のニーズの把握、リニア駅と在来線各駅間の所要時間の目標設定、そのためのハード整備、ソフト整備のメニュー検討、バス路線等についてはバス路線の想定などです。県ではこれらに基づき検討を進めています。
委員長	県の方ではこのスケジュールで進められているということですね。それぞれの部会で検討をされ、今はその報告という事です。この件で何かありますか。
アドバイザー	道路アクセス鉄道アクセスというのはリニア駅ができて、駅からまちへ広がっていくときに何か交通手段が無いといけないということで、鉄道系で行うか、道路系で行うかということだと思います。 鉄道系であればJRさんが自分でやられることですが、道路系というと市あるいは県がやらなければいけないということです。国道は県をまたぐ道路、市町村をまたぐ道は県道で整備をしていくのが通常のようなものです。もっと狭いのは市道です。県の会議なので県道で整備していくのかなというイメージです。 経済効果については難しいと思います。いろいろな条件のもとでのある仮定の話なので、難しいのではないかと思います。地域が儲かるのか、違うところから来た企業が儲けを持って行ってしまうのか、などいろいろとあります。経済効果といってもいろいろあり、どこの場所、どこの地域の会社が儲かるのかということは抜きにし

	て、トータル的な話です。大きな数字ですが、地域に向けるにはどうしたらいいかということを考えるための数値だと思います。
委員	地域の取り組みはどうかという話ですが、今回は JR 東海が整備する事業なので、民間のことは民間で考えてしてください。という認識でいいですか。
アドバイザー	建設時と完成後ではだいぶ違うと思います。建設時では、地元の話だと一般論ですが、例えば建設資材などを使うということであれば、近場でそれらを提供できる準備ができていればいい。持ってこないとできないということであれば目の前の工事でも遠くから資材を運んでやっているという現実もあるようです。できれば地元のものを使ってもらいたいと思います。
委員	個人レベルの商店では大きな事業の内容には無知ですが、大きな期待があります。そこはどうかよろしいのでしょうか
アドバイザー	工事期間中は多くの作業員も入ってくるからその人たちの生活があります。
委員	そういった事の情報提供は行政に期待をしています。
事務局	市としては市民の方に何かしらのメリットがあるといいと思っています。公表できる情報については公表させていただきます。
委員長	長期のイベントのようなものです。終わってしまったあとにも利益、効果があるような、一時の特需から末永く続くようにする転換が必要ではないかと思います。二地域居住や観光交流などといったことが県の活用戦略の流れなのかなと思います。
委員	昔、恵那はダムで建設で特需がありました。今回のリニアでも駅が近くに出来ることで、作業員の方たちが多く来ます。この人たちが暮らす町をどこに置くかということで経済効果は変わります。駅は坂本にできるのですが、暮らす場所が中津川にできるのか恵那市にできるのかで大きな違いがでます。道路についても現場へ資材を運び込むのに中津川市内で運ぶのか、恵那市側から運ぶのかでも違いがでてきます。これは早めに計画をして、特需を受けながら後利用ができたりしていくといいと思います。
委員長	うまく転換するということですね。
委員	山梨に見学に行ってきました。リニアの土を運んだりするための道路ができていてそれが町の景観を壊していました。リニアが完成したときに主要道路あるいはアクセス道路として使えるかが問題。リニアの建設だけのために終わってしまっている気がします。 まちの財産を壊しているような気がしました。そうならないためにも、もう始まっているのではないかと思うので、リニアができるためにどこを目指しているのかということ。市がもっと

	情報を提供してくださり、やりたいことを受け入れてもらえる機会が必要だと思います。
委員長	工事の手順でどうこうするのではなく、先にまちの姿があって、こういうまちにしたい。そのためにこういう道が必要だということを先に行う。工事用道路があってそれを後利用していく。ということでは手順が逆になってしまう。そういうことですね。
オブザーバー	経済の動きや予測、必要機能のまとめがありました。JRがおやりになることにどうのこうのというよりもリニア駅をどうするか。駅が出来ると単に乗降口ではなくて、魅力のあるものが必要です。それを今からどういう魅力のあるものを作っていくかという議論をしながら、まちづくりをどうしていくかということ話し合うのいいと思います。 駅そのものの機能は乗降口なので周辺の魅力をいかに磨くかということが必要です。このことを話し合うのがまちづくりの本質的なところだと思います。
委員	それは行政的な考えで、われわれの考えは違います。それにはあまり期待していません。その前段階を期待しています。将来的な話ではなく、今すぐの話をすべきだと思います。この会議はそういう会議ではないのですか。
アドバイザー	この前講演させていただいて、いろいろな機会でも市長とお話させていただいていただきます。私はこの前の講演でお話させていただいたように中津川市と比べて恵那市は直接駅が出来たりするわけではないから、一步後でこういう構想会議を進めていけばいいでしょう。というお話をしました。中津川市はどこの土地を買われるかわからない状態だから急いで対策を練らなければならないという話で一步先にやりだしました。そういう話をしたら市長は、うちはゆっくりという話ではなく、恵那も急がないと大変になる。と言っておられました。そういうことを考えられている市長との違いがどこから出てくるのかなと思いましたが今のお話を聞いてわかりました。 つまり地域に与える影響というのは新しい駅を開業するということもあるけれど建設事業はもう 2 年先から始まるわけだからです。そういう時から地元では特需効果が起こってくるわけで、それを地域にどういう風に取り組んでいくのかという話は大事なことです。それも今、おっしゃったようにその段階で街を壊してしまいます。まちの雰囲気壊してしまう開発が行われる可能性があります。 それから建設工事がまちを壊してしまう可能性があります。とおっしゃいました。そういう時のために、まちを守るべきはどう守って建設工事の影響をどうやってプラスを大きくし、マイナス効果を少なくするかを考えなければいけません。

アドバイザー

そういうことであるとすれば急いでやらなければならない。今、お話を聞いていて思いました。そうすると、構想というものの理論を２段階に考えなければいけません。

建設工事中の構想、それからできてからのもの、基本的には首都圏から観光客を取り込んで地域の地場産業の育成に結びつけるかということの２段階を今議論しなければいけないのじゃないでしょうか。しかも、工事という話になってくると、いわゆる役所がやる工事、公共工事であるなら県の委員会へものを言うために恵那市の事務局にこうするべきではないかということはこの構想会議で意見を言うことが大事です。今度の場合は皆さんご承知のように JR 東海という民間会社が大きな工事を進めるわけですが、いわゆる公共事業の発注方式と違います。いわゆる民の契約が発生するわけで、それについては小林さんが最初におっしゃったように構想会議でどうのこうのというよりも民間事業者として民で一足先に JR 東海が発生させる需要を取り込むかということが問題になってくるわけです。

そういうことはここで議論してもしょうがないじゃないか、民間事業者に任されていると考えていいのですね。とおっしゃったとおりです。が、JR 東海というのはいわゆる完全な民間会社ではありません。ですからどうなるかわからないから岐阜県のほうもそのあたりをまとめて、リニアが建設されるということだけでなく、それに伴って国道をどういう風にいれようか、県道をどういうものを整備しようかとか、県道ではなく市道ではないかとかということが始まっています。そのこと自体の話の比率は大きいから、そのことも全部含めて、市の事務局のほうにああしてほしい、こうしてほしいという話をしていく、あるいは私たちの将来のあるべき姿はこうだから、こうゆうことをやっちゃいけないとかいうようなブレーキをかけていくことはこの構想会議の大事なテーマだと思います。

ただし、民間事業者がこうゆうことをしてはいけないだとか、お互いにみんなでいわゆる談合して取り組もうという話をここでやることではないと私は思います。民間事業者は JR 東海というところが工事をやります。あるいは関連事業展開の商取引があるだろうがそこは民の話だから、この構想会議が取り仕切るとか規制をするということはないと思います。事務局よろしいですか。

事務局

はい。

工事と完成後のことを別々に考えるといくことではないような気がします。できた後の構想の中に建設段階を入れないと、ちくはぐになると思います。例えば民間のハード整備のまちづくりの側面という環境、例えば観光客の受け入れをどうしようとかいうのはある意味ソフトでもあります。まちづくりはソフトだけで済むのかというところではなくて、ハード面もやらないと成り立ちません。

私は恵那でいろいろやろうと思っています。恵那では田舎をメインにしたいと思っています。不便なところを売りたいというようなことを考えています。実は何をやるにしてもソフトだけできるものではありません、ソフトとハードの歯車がかっちりかみあっている時に、できます。それを考えるとリニアができた時、観光事業をどうしようということなど考える時、もっとちゃんとしたアクセスが必要じゃないか、それをリニアにあわせてどうぶつけていくかということを考えておかないと、絵に描いたもちになってしまう。

今、観光産業の中でおみやげ物屋というのがあります。駅前にもありますが、売り上げが多いのは高速道路のサービスエリアです。そこは完全に民間企業です。それに対して行政は何をやっているというともしていません。それでいいのか、あそこを行政的に何かタイアップしていくような政策がないものではないのでしょうか。あそこはつながっていません。だからリニアが来ても結局同じことになってしまう。

受益者がどこにあって、その受益を受けに来る人たちをどうするのか、というのをある意味民間が考えることだよというのは、その通りにいかないのではと思います。

道路のことにしても、ただ道路を通して周りの人が喜ぶかといったら、そうでもないと思います。それをちゃんと計画をして自分達の道路を今から考えていかないといけないということです。スマートインターという話がありますが、それをどう利用してどうリニアに繋げるか。恵那に住む人はどうしたらいいかといった時に、どういうまちを造るかといったことを考えないと意味がなくなります。

周りの人を含めた話をしていかないと15年たった時には何もなくなってしまいます。田舎の人たちの利益がどれくらい守れるかということも、いかにも行政的にこのことは行政、このことは民間という風に考えるのは、ずいぶん前の手法で、それはそれ、これはこれというようなやり方ではかみ合っていきません。やるのであればしっかりとやっていかないとまずいと思います。意見を徴収した。というやり方ではまずいと思います。

委員	同じことを思います。何のためにこの会議をやっているのか、私たちは集まっているのでしょうか。決まったことを伝えるだけという空気が漂っています。 恵那としてせっぱつまったこととか大きなことが起こった時は早めに手を打っていくのがいいに決まっています。いろいろな立場の方が集まってみえるので、いろいろなものを絡めながら話し合っていくといいと思います。
委員長	前回も少し話がありましたが、方向性が定まっていな気がします。県の役割、市の役割、市民の役割のかみ合わせがしっくりできてないと感じます。ですから、がちがちに仕切ってやるのもへんだなと思います。
事務局	全体の流れを説明させていただきます。これまでの議題では、今までであったこと、意見などを報告しています。また、現在の議題では岐阜県でいろいろ検討された結果を説明させていただいています。この後の議題では、恵那市の現状を説明します。 これから恵那市はどういったことをやろうか、今、話のあったように景観が壊れてしまうかも、もしくはみなさんに何か利益があるかもしれないなどいろいろなことがあります。まちを造っていかなければならないので、その構想をこの場で作っていこうということです。この部分はこれからとりかかります。が、何も無いところから議論ができないのでコンサルさんにたたき台を作ってもらって進めていくことになります。 それから県のスケジュールが重要で、リニア整備では現在環境影響調査を行っていますが、来年の秋には駅位置と路線が決定します。そうすると道路のインフラだとかどういうところを工事していこうというのが見えてきます。岐阜県ではそのスケジュールに合うようにまちづくりのプランを決めていこうとしています。 市としてはここに意見を伝えたい。自分達のまちはこうしたいのだということを伝えたい。そのことはこの後の議題でできます。 今はスケジュールや決めなければいけないことが解らないまま議論が始まってしまっているので、はっきりとしなくなってしまうと思います。 今後のスケジュールを認識しながら作業に入っていただきたいと思います。
委員長	議題がこの後あるようなので、次の議題に進めたいと思います。
事務局	議論の基礎情報として、恵那市の現状をコンサルタントがまとめているので、お聞きいただきたい。

恵那市の強みと弱みという項目がありますが、今後まちづくりを行っていくうえで、この強みを伸ばしていこう、弱みを克服していこうということで定義しています。

今回の資料は統計書などから整理しています。強み、弱みについてはひとつの考え方ということで整理しています。

項目に従って説明していきます。人口について近年は減少傾向にあります。とくにここ 10 年間で約 5400 人減少しています。そして高齢化が進展しており、率は 28.9%で東濃圏域の中でも高い。人口動態についても、150 人から 300 人の転出超過となっています。ここは弱みではないかというまとめ方です。強みとしましては、市で移住定住政策を進めており、H23 で 49 世帯、134 人の移住実績があります。さらに恵那市と周辺市町村の流動をみていくと中津川市との流動が一番ですが、名古屋市あるいは豊田市との流動もあります。ここは強みになって生かすべきであろうと考えています。

続いて農業についてみていくと、農家率が 22.6%と高くなっているのが特徴です。さらに専業農家の率も高くなって、いずれも東濃圏域で上位です。そして特色ある農産物もあります。恵那 100 選などから把握しています。弱みとしましては担い手の高齢化と後継者不足が挙げられます。あるいは耕作放棄地が増加していることがあります。

工業の状況では、事業者数などは減少傾向にあります。強みとしては恵那テクノパーク、窯業関連、紙関連、プラスチックなどが多くあるということです。

商業については全国的なことでもありますが、事業者数が減少傾向です。

観光については、観光資源歴史文化施設、スポーツレクリエーション施設などがありますが、これらが十分生かされていないのではということもあります。また、各地域の観光資源の連携が弱いのではということがあります。

入込み客数は増加傾向にあります。宿泊施設は中津川市と比べて恵那市の方が多いということがあります。

住環境では、都市と比較して持ち家率が高いことがわかります。さらに 1 戸当たりの規模が大きい。これは特徴です。弱みは空き家戸数が多い。

土地事情は都市計画区域が指定され、計画的なまちづくりが進められています。ただし、指定されていない区域において、開発が活発にあり、無秩序な開発が今後行われる可能性があります。地価について地価変動は下落が続いている傾向があります。

アクセスについては県の図面からは北のほうからは濃飛横断道、

コンサルタント	愛知県側には三河東美濃道路ということで計画があります。 リニア駅付近では、駅方面への道路が脆弱です。強みとしては中央自動車道恵那峡サービスエリアがあること。 公共交通機関は、ＪＲ中央線と明知鉄道。ＪＲ中央線の乗客数は少し減少傾向にあります。明知鉄道は上昇が見られます。バス路線網は比較的充実しているが、乗降客数は減少気味です。ひとつの考
委員長	え方として強み、弱みをまとめたものです。 市の基本的なことを分析していただいています。今後はこのことを基礎において検討を進めていくことになります。次に今後のスケジュールについて説明をお願いします。
事務局	前回の会議で話しやすさや地域住民への提案などのご意見をいただきました。今日のスケジュール案に載せてあります。 次回の委員会は１２月に予定をしています。その間に、県の研究会の体制にあわせグループ分けを行い、大きなテーブルではないところで、それぞれのテーマで議論を進めていけられたらという風に考えています。 １０月から１２月までの間に３回程度の会議を予定しています。また、山梨の実験線は形として見えるので、見学をしたらどうかと思います。工事現場内へは立ち入りできません。 ３回目の委員会ではグループ討議の報告を考えています。 各地域の意見は１１月ごろまでに各地域協議会へまちづくり構想への意見の投げかけをして、２月ごろまでに提案をしていただくように考えています。 第４回の委員会は２月頃を予定しています。県の方では１月頃までに一次案をまとめることになっています。それとの整合性なども考えています。 今年度の検討内容の結果報告を年度末に行いたいと思います。 ２５年度には委員会を５回程度予定しています。２５年度秋にはルート駅位置の公表があります。ここで微調整など必要があれば行っていただきたいと思います。 今回の提案は、個別にグループで作業をして行っていただきたいと思いますということです。グループは３つに別けたいと思います。
委員長	少人数で集まっていただいて調整をしていくということですが、どうでしょうか
委員	集まって議論した結果は市として受け入れていただけるということとでいいですか。いろんな意見を言っても最終的に市の思うようになってしまっていたりすることもあります。

事務局	内容によっては、できる、できないというのは、ＪＲが主体なので保証できないこともあります。 構想委員会で作った意見は総合計画へ位置付けていくことを考えています。その後は財源計画などもあるので、課題はあります。
委員	いろいろな考え方があると思いますが、これはチャンスです。このチャンスを将来のまちに生かしたいと思い、リニアまちづくり明知鉄道住民会議というのを 10 月 24 日に立ち上げることになっています。 何をするかという、沿線の景観を含めたまちづくり、沿線の地域の人たちと観光との連携を基本として考えています。もうひとつは SL を走らせたならおもしろいということも考えています。沿線の皆さまと一緒にやっていきたいと思っています。
委員長	先ほど、開通するまでと開通してからという話がありました。観光まちづくりについてもリニアができてからもきれいわけでもなく今から 15 年という時間があるにしても 15 年後には完成していないといけないと思います。
委員	今回の議論では、フィールドは 2 つあり、ＪＲ東海と恵那市の行政。従来、われわれが描くイメージは行政に頼めばやってもらえるというのがわれわれのクセです。でも今回は JR があります。JR がやってくれることに行政がいち早く、どう動くかということがあります。JR に問いかけることは誰がやるのかということを考えたときに将来的なまちづくりを描いて投げかけていけないといけません。 よく考えないといけないことはＪＲがどういうことをするのかという情報をいかに早く手にいれるかということでしょう。それを恵那市のまちづくりとしてどのように役立てるかということが重要だと思います。 今回のこの構想はリニアが来るからどういうものをつくるかではなく、恵那市がこれから生きていくためにどういう構想をつくるかということだと思います。 人口減少対策をやらせていただいているのですが、全ての問題が人口減少につながっています。われわれの委員会の中では人は来るが、いかに長くいてもらえるかが大事だということを話し合っています。
委員長	県の戦略によると、基盤整備の部分では、県は駅の周りの道を造るというイメージです。 工事期間中に地元が潤うような何かという話になるとＪＲを巻き込んだ形での動きが必要となります。

アドバイザー

今回の工事はトンネルが主になります。トンネルのズリを搬出する作業があります。JRはトンネルを掘り、構造物を作ってください。駅は作るがJRが考えている簡素な駅だけでいいのか。これが重要です。

駅の中にどういう機能を持ち込んで、開業の影響を恵那に持ってくる仕掛けをいかにするかが問題。恵那市の都合のいいように駅を利用できるようにしなければなりません。恵那市との間の道路をどのようにしたらいいのか、もうひとつは開業以前の工事の段階で影響をどう持ってくるか。工事関係者が沢山入ってきます。恵那は大正から大井ダムの工事があるって労働者が沢山入っています。これは一過性とはいうものの大変な数字です。そういう人たちの生活の場として移住対策などが重要です。どこに住んでもらうかということを決めてまちづくりにあわせて作らなければなりません。政策的にどこに入ってもらうかをやっていかないとはいけません。

これらを次の総合計画に入れるように今から議論を始めるべきだと思います。

もうひとつは、「総合車両所」。中津川市内にできることになるとありますが、いろいろな憶測がありますが従業員数は600人から1000人くらい従業員が張り付きます。場合によっては関連事業者がまわりに張り付くともう少し増えるかもしれません。この人たちの家族を含め3000人前後の人が動くことになります。

東京や名古屋から通うことはありえますが、中津川か恵那に住んでもらって、働いてもらおう。これは現在の移住政策の効果と比べると数字はばかになりません。そういうことを考えてまちづくりを議論すべきです。

もちろんズリを運ぶトラックがまちにどれだけの影響を及ぼすかということも大事ですが、運ぶルートをここにすべきであるとかいうことをこの会議で決めるのはものすごく難しい。むしろそれをやるのであれば、ここを通ってもらっては困るという地域、守らなければならない地域を作るのがいいと思います。

それからせっかく大勢の人が来てもらえるのに中山道などがなくなってしまうのは困るので、そういうものを守っていくためのプロジェクトなどを作る議論をこの委員会ですべきでしょう。

委員

みなさんいろいろ意見をお持ちだろうと思うが、リニアが来るにあたって内面性を利用してこの地域の活性化をするのが大切だと思います。

中学生の意見にもありましたが観光資源を大事にして、恵那駅を利用して考えるのならいいが、それ以上のことを考えるのは難しいと思います。

	リニア駅ができてでも在来線が使えないようなものであれば構想は難しいと思います。
アドバイザー	県の研究会では新駅は在来線既存駅に近い場所に設置すべきだと期成同盟会を通じて要望しています。ＪＲ東海からの公式の回答はありませんが、受け取った時の社長談話では、極力この要望に近づけたいという話は出ています。これを前提にやるしかありません。 先ほどの明知鉄道の話はいろいろと楽しい夢は描けます。ＳＬは東濃新駅の前に止まれるように。なんていう話もあるかもしれません。
委員	駅周辺の道路網の話は県の整備だと思うが、オブザーバーの岐阜県さんがグループ会議に入ってもらおうとかいうのもいいかもしれない。県はどこで考えているのでしょうか。
オブザーバー	リニア基本戦略を作る時は、産業振興部会と観光・まちづくり部会の２部会でした。基本戦略では３つの戦略とそれを支える基盤づくりということでまとめ、その後のリニア活用戦略研究会を立ち上げる時点で基盤整備部会を作りました。 基盤整備部会では県全体の基盤整備と道路アクセス、鉄道アクセスなどを検討しています。
アドバイザー	大きな話ではありますが、県が決める前に地元で要望しなければいけません。だから急いでこの委員会をスタートさせた。県が計画を調整している段階が重要です。中津川市では交渉に入れる体制が整っています。 今日、私が思うアクセスについて説明したいと思います。（図を書いて説明） 下呂と駅を結ぶのが大事です。国道 257 の増強、登坂車線の整備や立体交差にするといい。これは濃飛横断道の自動車専用道路ではなく国道を増強するのがいいです。その先は三河東美濃道をつなぐという計画がありますが、15 年の間ではできません。 中津川 IC と恵那 IC を結ぶアクセスが必要になります。 恵那 IC から市街地を避けて南へ抜ける道も必要。工事にも利用できます。ＪＲの北側は開発が進んでいないので、住宅地の開発もできます。 一番大事なのは恵那 IC と中津川 IC を結ぶ道路だと思います。これは県道でやってもらえるといい。中津川市と恵那市をまたぐ道路として県道にしてもらうことができるかもしれません。
委員長	大きな意味でのアクセス道路の考え方ということで理解いただければと思います。 その他、ご意見なければ、今後は３つのテーマでグループ議論を進めてもらうこととします。

アドバイザー	若い人や市民の中にこれを機会に、リニア駅に大ショッピングモールができないかなと思う人がいます。その可能性はあります。がそれでいいかということです。 中津川、恵那の現在のまちへの影響は大きい。そうならないようにしなければいけない。ショッピングモールの進出計画が成り立たないように現在のまちのしっかりとした計画を立てないといけないのです。
委員長	その他、何かありますか。 なければ本日の進行はこれで終わります。
事務局	資料の中にグループの希望調査票があるので、お帰りの際に提出をお願いします。また、次回の委員会の日程を決めたいと思います。12月3日か7日ということですが、いかがでしょうか。 ご意見なければ委員長さん決めてください。
委員長	12月3日でよろしいですか。
事務局	今回は12月3日とします。本日はありがとうございました。